

第3回やつしろ・まち・ひと・しごと対策推進会議(平成28年3月28日開催) 議事要旨

No.	質問意見	会議での回答内容	補足等
1	子どもの貧困について、八代市における貧困の割合を把握しているか。子どもの貧困の少なさは、子育てがしやすいまちであると思っただき、移住・定住先の選択につながると思われる。	・子どもの貧困は全国的な問題であると認識しており、議会からも質問があった。貧困の基準も難しいところがあり、本市の貧困率は把握できていない。 ・また、子どもの貧困については、校別にケース検討会議が設けられている。この検討会議は、民生児童委員と小中学校の先生、幼稚園の先生がメンバーであり、貧困や、発達障害、虐待の児童がいた場合は、ケース検討会議を開催する仕組みになっている。	・子どもの貧困対策については、横断的な体制づくりを行い、連携を図る必要があるため、平成28年度において、まず、行政内部の関係部署における庁内連絡会議等を設置する予定である。 ・また、児童虐待防止の観点から、経済的困窮を原因とするような要支援家庭等については、個別ケース検討会議を開催し、関係機関が連携した支援体制を行っている。
2	会議資料2、P2のNo6「営農支援事業」について、農協や県も実施しているが、八代市ではどのように進めていくのか。	・本市では、営農支援員2名を非常勤職員として農林水産政策課に配置している。新規就農者30名の指導や、「流通」という視点で経営も含めたアドバイスをを行っている。就農者からの評判もよく、今後も継続する方針である。2名で不足する場合は補充することを考えている。	
3	会議資料2、P19のNo13「準要保護就学援助事業」について、給食費の援助対象者数及び予算を教えてください。	「準要保護就学援助事業」の予算は、7000万円前後であり、年々増加傾向にある。必要な予算は確保していきたい。	・「準要保護就学援助事業」とは、経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学校給食費の援助を行う事業。
4	会議資料2、P19のNo7「こども医療費助成事業」について、対象年齢拡大に伴う予算について教えてください。	・「こども医療費助成事業」においてH27年度の小学3年生から6年生までの拡大に伴う予算は、5～6000万円程度。また、H28年度は中学生まで対象を拡大することとしており、当初予算では5～6000万円程度となっている。	・こども医療費助成事業の対象年齢については、就学前児童までであったものを、平成25年10月より小学3年生まで、平成27年4月より小学6年生まで、平成28年4月より中学3年生までに、順次拡充しており、子育て家庭の経済的負担軽減や、子どもの健全育成の充実に努めている。
5	総合戦略を策定した以上、目標の達成が大事である。そのため、毎年、課題を把握する会議の開催をお願いする。目標を全て達成するという強い意気込みで計画の推進をお願いする。	・総合戦略に掲げる重要業績評価指標(KPI)については、毎年度の算出を基本として、達成状況については、本推進会議で報告させていただく。また本日の会議で頂いたご意見については、今後の施策展開の参考にさせていく。	
6	基本目標が4項目あるが、予算配分はどうなっているのか。どの項目に特化するのか、予算面から説明をお願いしたい。また、総合戦略が終了したH31年度以降の国庫補助の考え方についても、お伺いしたい。	・本市の全体予算としては、社会保障関連予算の割合が大きい。地方創生関連の予算については、地方創生関連交付金の対象事業が、原則、総合戦略に基づき取組むソフト事業となっているため、現状ではソフト事業が中心となっている。また、どの項目に特化するかについては、会議資料1で、重点として説明した項目について、交付金も活用しながらこれまで以上に重点的な予算配分を行いたいと考えている。 ・総合戦略(計画期間H27～31年度)の計画期間以降の交付金の考え方については、いつまでも補助を受け続けるのでは成長がないため、見直ししながら、自立を目指してやっていくことを考えている。	
7	人口を増やしていくことが一番重要であり、いかにして人口を増やすかが課題である。市に魅力がないと移住者は増加しない。H28年度は、思い切った事業を行うことで魅力を高め、人口増につなげてほしい。	・会議資料2、P16のNo4「移住者交流ネットワークづくり事業」において、移住者の受入体制の強化に取り組んでいるところである。移住者の視点から八代市の魅力を発掘することも行っており、人口増加に向けた取組みを更に進めていく。	
8	人口ビジョンによると、生産年齢人口(15～64歳)は、現在の約8万人から2040年には約5万人にまで減少する。そのため、企業では生産性向上のための投資が必要になってくる。これらに対する支援は、総合戦略ではどの項目に入っているのか。	・総合戦略では、会議資料2、P6の「(2)「人材」の確保・育成・支援」の項目が該当すると思う。平成27年度は、地方創生関係の交付金を活用し、No1の「八代市地域人材マッチング事業」、No2の「八代市経営者人材育成支援事業」に取り組んだ。	
9	生産性向上に対する支援は、会議資料2、P7の「(3)基幹産業の支援・強化」に入っているのか。	・生産性向上に資するものとしては、会議資料2、P5のNo1「八代市中小企業販路開拓支援事業」や、P9のNo16「企業誘致対策事業」が該当する。新年度は地場企業への高校生体験就業支援事業や、中小企業の採用向上に向けたセミナー、インターンシップを開催する中小企業魅力発信事業を新たに実施する予定としている。	
10	会議資料2について、H29年度、H30年度と新たに事業が追加されていくという理解でよいか。	・総合戦略に基づく取組みは、重要業績評価指標(KPI)による評価を行い、毎年度見直しを行っていくため、事業の追加等も行っていく。	

No.	質問意見	会議での回答内容	補足等
11	八代市の定住を考える場合、雇用の場はどれ位拡大されるのか。企業誘致、産業活性化も雇用に繋がると思うが、どの重要業績評価指標(KPI)に該当するのか。	・人材確保、産業の活性化関係の指標は、会議資料1-2、P6の「①農林水産業の新規就業者数」、「②人・農地プランにおける中心経営体数」、P7の「①企業立地件数」である。	
12	八代港への大型クルーズ船の寄港は、どこまで増やせるのか方向性を聞かせてほしい。	・大型クルーズ船の寄港については、会議資料2、P14記載の重要業績評価指標(KPI)、「①クルーズ船の来航数」で、目標は42回と設定している。蒲島熊本県知事は、年間60回を目指したいと話している。 ・市としては、熊本県と連携しながら取組んでいきたい。また、クルーズ船を受け入れる施設整備が整っていないので、国に対し、クルーズ船を迎え入れる仕組みを提案していきたい。	
13	総合戦略について、目標の100%達成は難しい。どれだけ達成しているか、中間年次に検証を行う必要があるのではないか。	・総合戦略では、基本目標毎に数値目標が記載されている。この目標につながっているのが施策であり、施策を評価するのが重要業績評価指標(KPI)である。そのため、重要業績評価指標(KPI)の検証が、基本目標の検証に繋がるものである。目標値の検証については、H27年度のKPIの検証を平成28年度の10月頃に実施し、結果をH29年度に反映させていきたい。	
14	会議資料の2について、わからない横文字が多い。そのため、( )書きで日本語説明を入れていただくと、市民の人にもわかりやすい。	・対応する。	
15	八代市からは、正しい情報を発信して頂きたい。ホームページや公式フェイスブック等。また、エフエムやつしろでも情報発信が可能である。	・ホームページもリニューアルし、見やすくするよう努めている。より多くの市民の目に触れるように努力していくとともに、市民に分かりやすく正確な情報発信を心がけていく。	
16	第3子以降の保育料無料化は、全国でも先進的な施策である。そのため、八代は子育てに良い環境であると思う。第3子は無料、第2子は半額なのだが第1子の軽減措置についても保護者から要望があがっている。		・本市の保育料は国基準から概ね4割軽減している。また、第三子の無料化については他自治体に先行して行っているところである。さらに、H28年度からは、国の制度改正により収入が約360万円未満のひとり親世帯の第1子は半額、第2子は無料、多子世帯の第2子は半額、第3子以降は無料としている。今後も、国、県の制度を活用しながら保育料の軽減に努めていく。
17	近年、発達障害が急速に増加している。八代市では4歳児健診はないが、旧鏡町では実施していた。発達障害の兆しは4歳児頃出てくるため、4歳児健診を取り入れてほしい。早期に発見できると早期療育が可能である。		・育児に関する保護者の不安は発達障がいを含め様々であることから、3歳児健診の対象年齢を3歳4～5ヶ月児とし、分かる・できるようになる時期を待って実施している。4歳以後も発達に対する不安があれば保護者や保育士と状況を確認しながら、必要に応じ子ども発達相談や子ども総合療育センターなどの専門機関を紹介し、早期療育に努めている。
18	発達障がい児の場合、就学児の訪問支援は行われているが、未就園児については、乳幼児健康支援事業の健診の時しか発見できない。会議資料2、P19のNo11「八代圏域地域療育センター事業」で、早期発見・早期療育の充実を図るとあるが、H28年度の拡充予定はあるのか。	・早期発見、早期対応については、八代圏域地域療育センターを核として実施している。現在実施している乳幼児健診を始め、関連するさまざまな事業の周知広報を行い、相談しやすい体制にしていきたい。	・H28年度については八代圏域地域療育センターに保育士を増やし、外来療育や保育所訪問等の療育の充実を図る予定である。
19	総合戦略に掲げる各目標は、市民にとっての目標ならば、総合戦略をどのように市民に周知していくのか。市民が危機感、問題意識を持ち取組んでいくと、目標の達成が可能と思う。	・総合戦略の推進は行政だけではできない。民間の知見や努力に期待するところもあるため、総合戦略策定にあたっては、あらゆる分野の方に参加をいただいている。また、委員の所属団体など関係者への情報発信をお願いしたところである。周知については、総合戦略の策定については、市HPや広報紙に掲載した。「正しい情報の発信を」とのご意見があったように、HPもリニューアルし、見やすくするよう努めている。より多くの市民の目に触れるように努力していく。	

※会議資料1: 八代市総合戦略・概要版(A4)

※会議資料2: 八代市総合戦略・平成27年度事業